

様式第2号（補助金交付要綱第7条関係）

補 助 事 業 計 画 書 （1/2）

- 本書により審査を行いますので、内容はできるだけ詳しく、具体的に記入してください。
- 必要に応じて記載欄を拡大縮小してください。また、図面、イラスト、写真、見積書等活動内容の参考となるものがあれば添付してください（ただし、提出される書類は、A4判（両面使用可）に統一してください。）。

1	学校名	〇〇高等学校	
2	教育活動	区分	① 生活交通の維持・確保について
		テーマ	高齢者の移動手段確保について
3	連携する市町	□□町	
4	連携する企業、団体等	〇〇株式会社、□□自治会	
5	参加する生徒	（学科、学年ごとに人数を記載してください。） 普通科 3年 〇〇人 2年 〇〇人	
6	※記入例はあくまで例示であり、活動内容の方向性を指定するものではありません。 選択テーマにより、生徒による実行が可能なものについては、方策実施まで見越した活動が望ましいと考えています。 活動の目的、内容、期待される成果を項目ごとに記載してください。	【目 的】	□□町では人口減少や少子高齢化等による利用者の減少により、公共交通の衰退が懸念されている。また、免許返納後の高齢者が多いため、移動手段の確保が課題となっている。そこで、現状の利用実態や問題点を調査し、持続的な移動手段の確保策について検討・提案を行う。
		【内 容】	・□□町内の高齢者を対象に、公共交通の利用機会や不便な点等について聞き取り調査やアンケート調査を行う。 ・□□町内の公共交通の運営状況等について□□町や〇〇株式会社から個別にヒアリングを行う。 ・上記結果を整理分析して有効な方策の仮説を立て、実地調査も行いながら提案をまとめる。 ・関係者を集めて、意見交換や情報共有を行う報告会を開催する。
		【期待される効果】	（生徒に対する効果、地域に対する効果、関連団体等に対する効果 等） ・地域に入って聞き取りや実地調査を行うことで、生徒自身が□□町における実状を理解し、課題意識を持つことができる。 ・生徒の視点からの方策提案を行うことで、従来にない新たな視点からの提案を行うことができる。

7 活動の効果、発展性等 活動の効果など審査基準に沿って項目ごとに具体的に記載してください。	【事業効果】 （事業内容は生徒が地域へ出向き、主体的に取り組むものとなっているか。地域に貢献する人材育成につながるものとなっているか。） 生徒が現地に赴き、地域住民と直接交流しながら聞き取りや実態調査を行うことで、当該地域への理解を深めるとともに、課題解決に向け意欲的に取り組むことが期待できる。 【課題認識】 （事業内容は地域の課題を理解した上で検討されたものであり、活動の活性化や課題解決につながるものとなっているか。） □□町では人口減少や少子高齢化等による利用者の減少により、公共交通の衰退が懸念されている。また、免許返納後の高齢者が多く移動手段の確保が課題となっている。本事業では、町内の高齢者への聞き取り調査を行うなど、地域のニーズを把握した上で、高齢者の移動手段の確保策について提案を行う。 【実行性】 （事業スケジュールや予算が具体的かつ現実的な事業となっているか。） ・ 本校では、以前から、生徒のフィールドワークを取り入れた地域課題演習を行っており、過去に△△地域において類似の活動実績がある。（概要別添） ・ 本校では、週に 1 度、学外で活動する時間を設けており、地域に出向いて、実地調査を行う機会を十分に確保することが可能である。また、予算については、過去の活動実績も踏まえて、必要経費を算出している。 【先駆性・独創性】 （新しいアイデアや学校の専門性・特色等が活かされた事業となっているか。） ・ 本校では、1 年生から総合的な学習として、□□町の地域をフィールドに、様々な分析手法を活用し、地域と連携した取組を行っている。本事業においても、生徒がこれまでに経験した取組で学んだことを活かし、地域の実情や住民のニーズを踏まえた利用者目線の方策提案を行うこととしている。 【継続性・発展性】 （地域との関わりの継続・定着や、新たな地域での展開が期待できる事業となっているか。他地域でも参考となる活動となっているか。） ・ 地域の方や自治体、事業者からの聞き取り等により、それぞれが抱える課題を明らかにし、また、その結果から立案した方策を報告会で提案して地域にフィードバックする予定としている。 ・ 来年度以降は、地域団体や自治体、事業者等と連携し、今年度提案する方策を具体的に取り組んでいきたいと考えている。 ・ 公共交通の衰退が懸念される現在、高齢者の移動手段確保は圏域内の多くの市町が抱える課題であるため、今回の活動の成果や手法を圏域内の他市町においても応用することができると考えられる。
--	---

補 助 事 業 計 画 書 （2/2）

8 実施スケジュール

どの時期に何をするのかを御記入ください。

高校等や活動を行った地域で活動成果の発表をする場合は、発表時期についても御記入ください。

年度（時期）		活動内容
令和 年度		【継続した活動の場合、過去の実績状況等】
令和7年度 （当該年度）	7月	□□町内の高齢者を対象にした聞き取り調査の調査項目を検討
	9月	□□町や公共交通事業者から、現状等の聞き取り 町内の高齢者へ聞き取り調査を実施
	11～12月	方策の提案内容作成 調査結果の分析 実地調査も組み込んだ、有効方策の仮説立案・検証
	1月	・ □□町内の住民や協力団体へ提案報告会を〇〇で実施
	2月	成果報告資料、実績報告資料の作成
	月	
令和8年度		【継続して研究活動を実施する予定の場合、次年度の活動概要】 提案内容の実証と効果の検証に取り組む。

※ 次年度の活動に対する補助を約束するものではありません。